

令和 6 年度
練馬区死亡小票分析報告書説明資料

令和 7 年 3 月 2 4 日
練馬区地域医療課

1. 調査概要

- 調査目的

本調査は、練馬区における看取り死（死亡診断書が発行された死亡）の状況を分析することで、在宅療養環境整備の進捗状況を把握し、施策に活かすことを目的とする。

- 調査方法

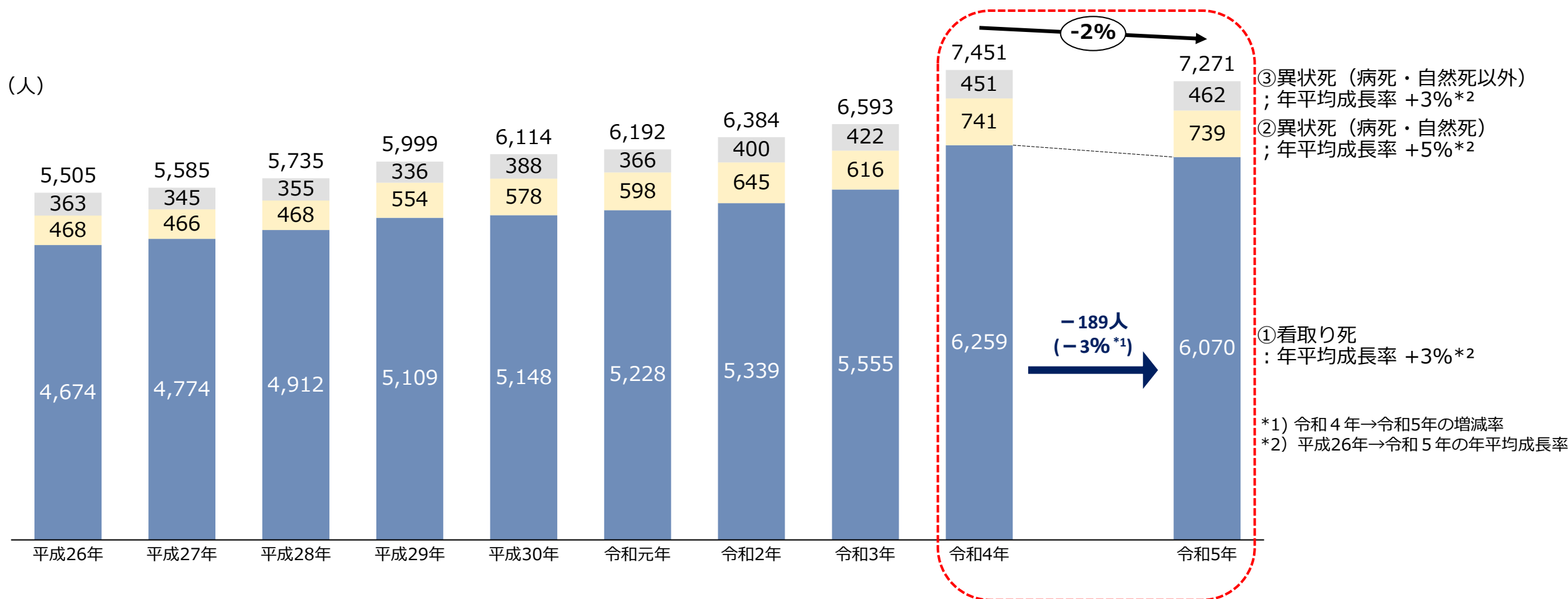
厚生労働省が実施する人口動態調査の死亡票を区独自に集計・分析した。

- 調査期間・対象

令和5年1月1日～令和5年12月31日に死亡した練馬区民を対象にした。また令和4年以前分については過年度の分析結果を用いた。

2-1. 練馬区の死亡者数：死亡分類別の経年変化（実数）

✓平成26年から令和4年にかけて死亡者数は増加の一途を続けてきたが、令和4年から令和5年にかけては2%減少した。
また、看取り死数も令和4年から令和5年にかけて3%減少した。

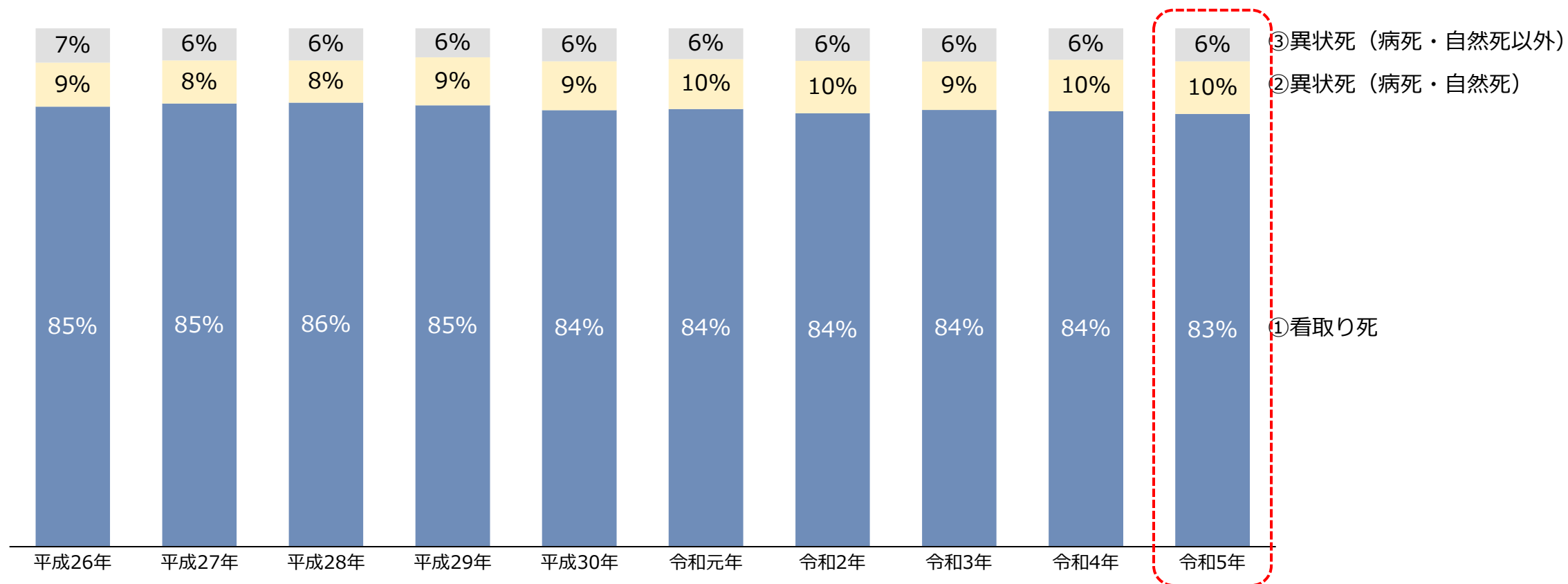


看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。

異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの。

2-2. 練馬区の死亡者数：死亡分類別の経年変化（割合）

✓看取り死数※¹と異状死数※²の割合に、経年での大きな変化は認められない。

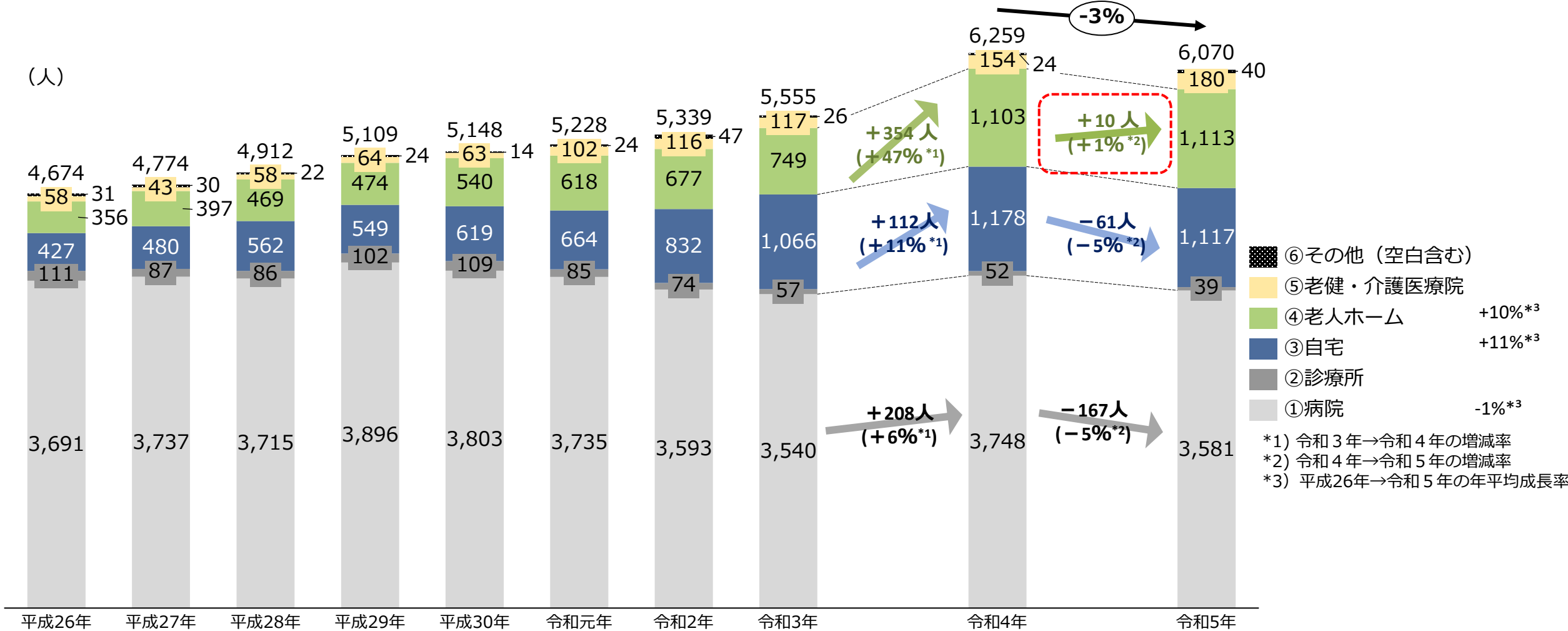


※¹ 看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。

※² 異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの

3-1. 練馬区の看取り死の状況：死亡場所別の経年変化（実数）

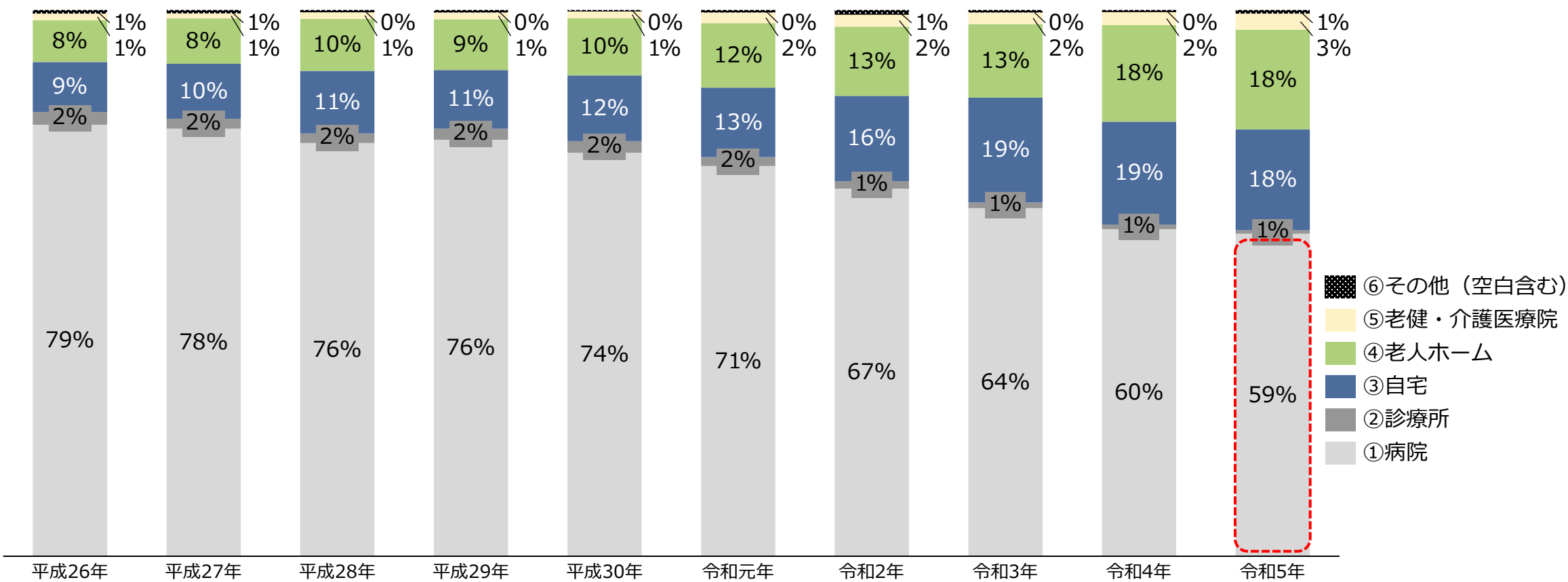
✓死亡場所別の看取り死数の推移をみると、令和4年から令和5年にかけて看取り死数の合計は3%減少したが、老人ホームにおける看取り死数は増加した。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。
「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

3-2. 練馬区の看取り死の状況：死亡場所別の経年変化（割合）

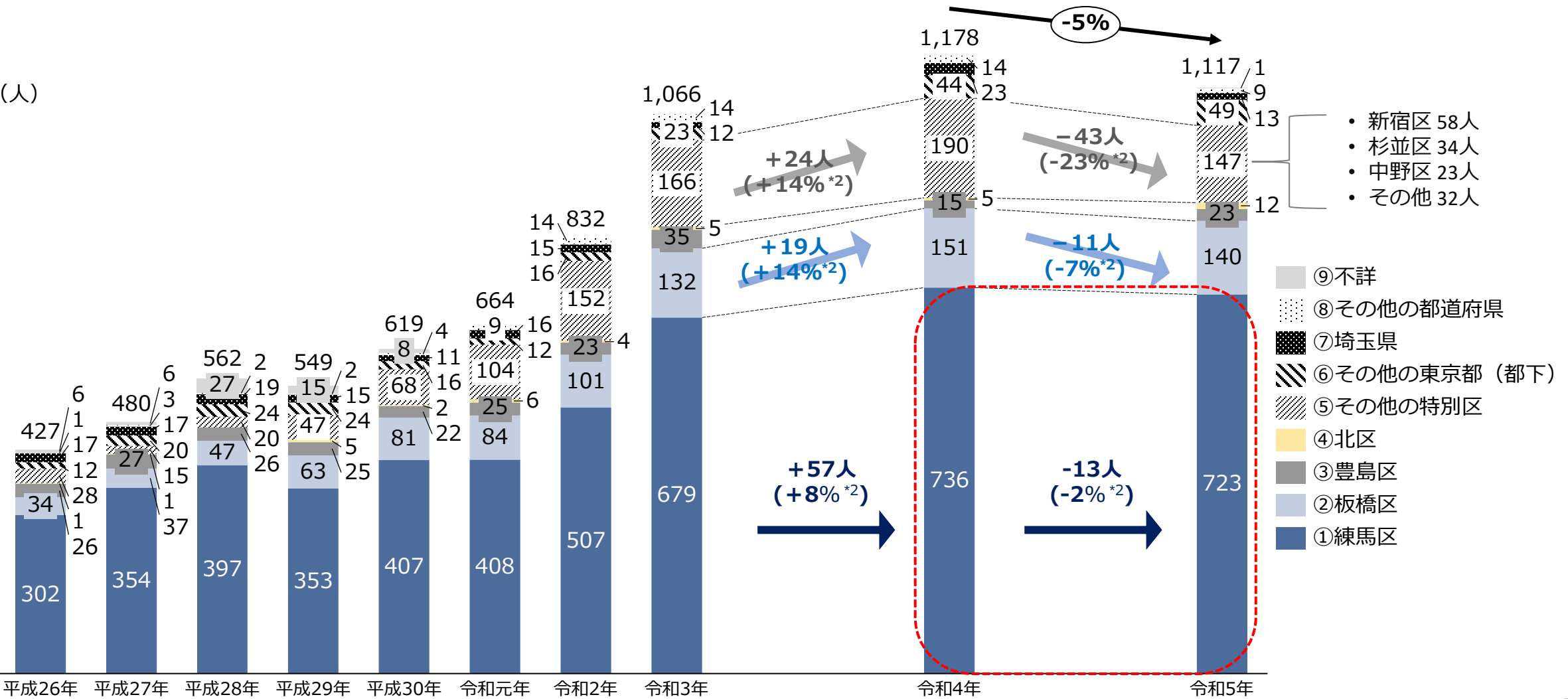
✓死亡場所別の看取り割合の推移をみると、平成29年以降病院における看取り割合は減少傾向にあり、令和5年は59%で、平成26年以降で最も低い割合であった。



「④老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。
「⑥その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

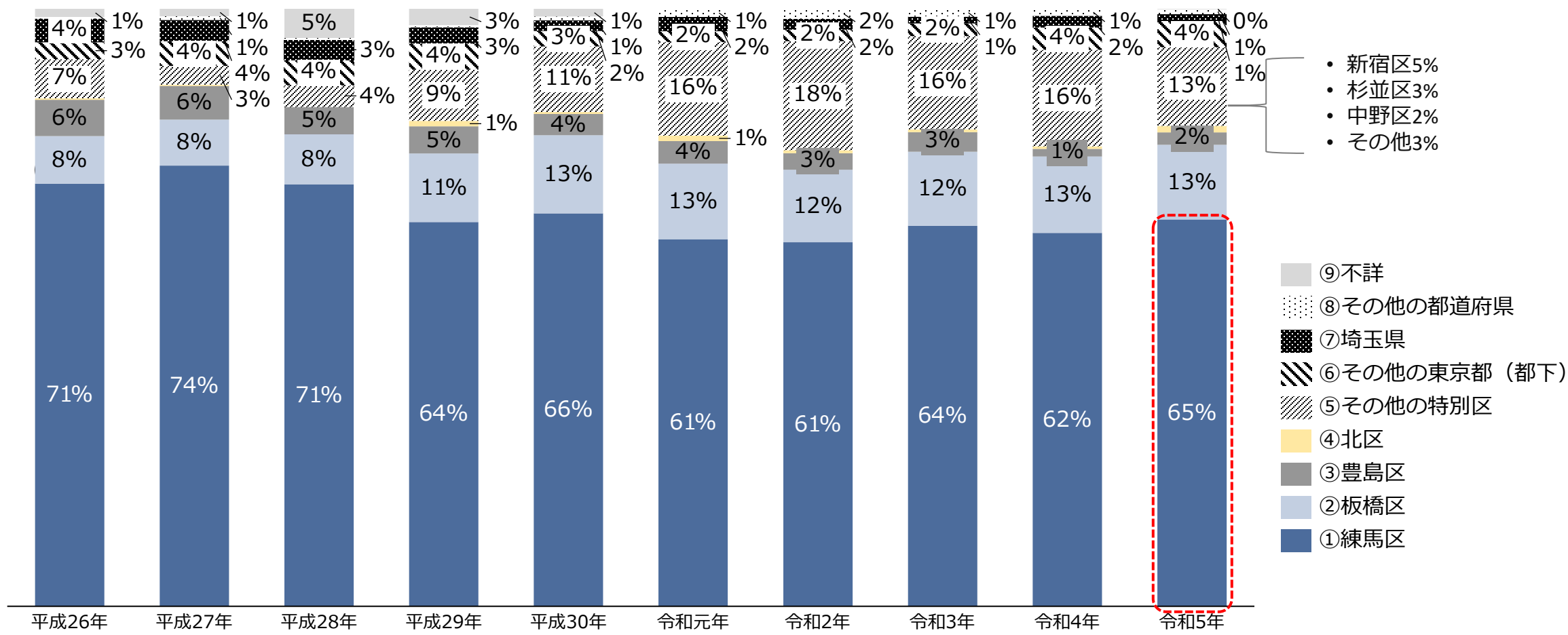
4-1. 在宅（自宅）看取りの状況：医療機関所在地別の経年変化（実数）

✓令和4年から令和5年にかけて、在宅看取り数の全体は5%減少したが、区内医療機関による在宅看取り数は2%の減少に留まった。



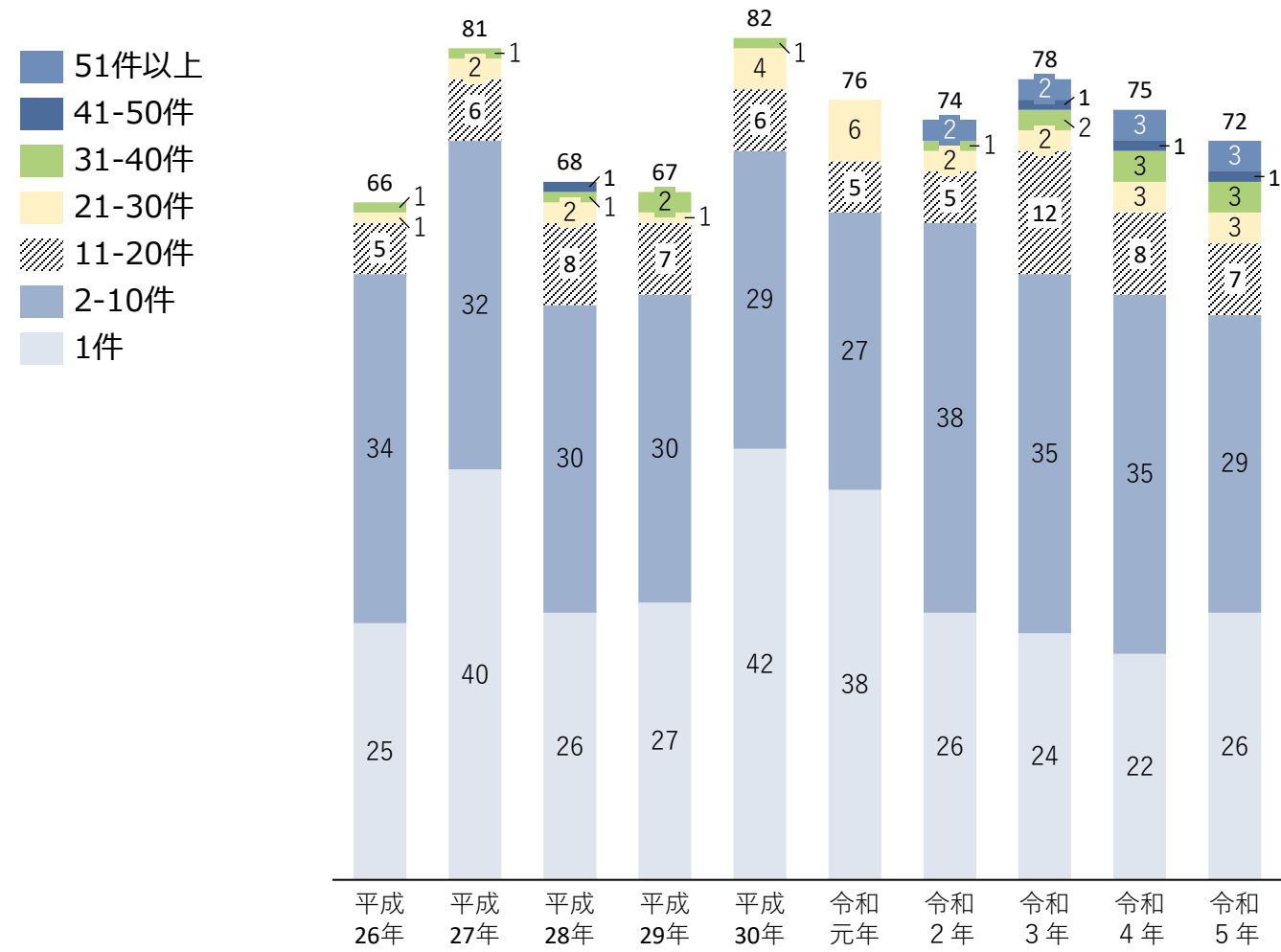
4-2. 在宅（自宅）看取りの状況：医療機関所在地別の経年変化（割合）

✓令和5年における区内の医療機関による在宅看取り割合は65%であり、過去5年間の中で最も高い割合であった。



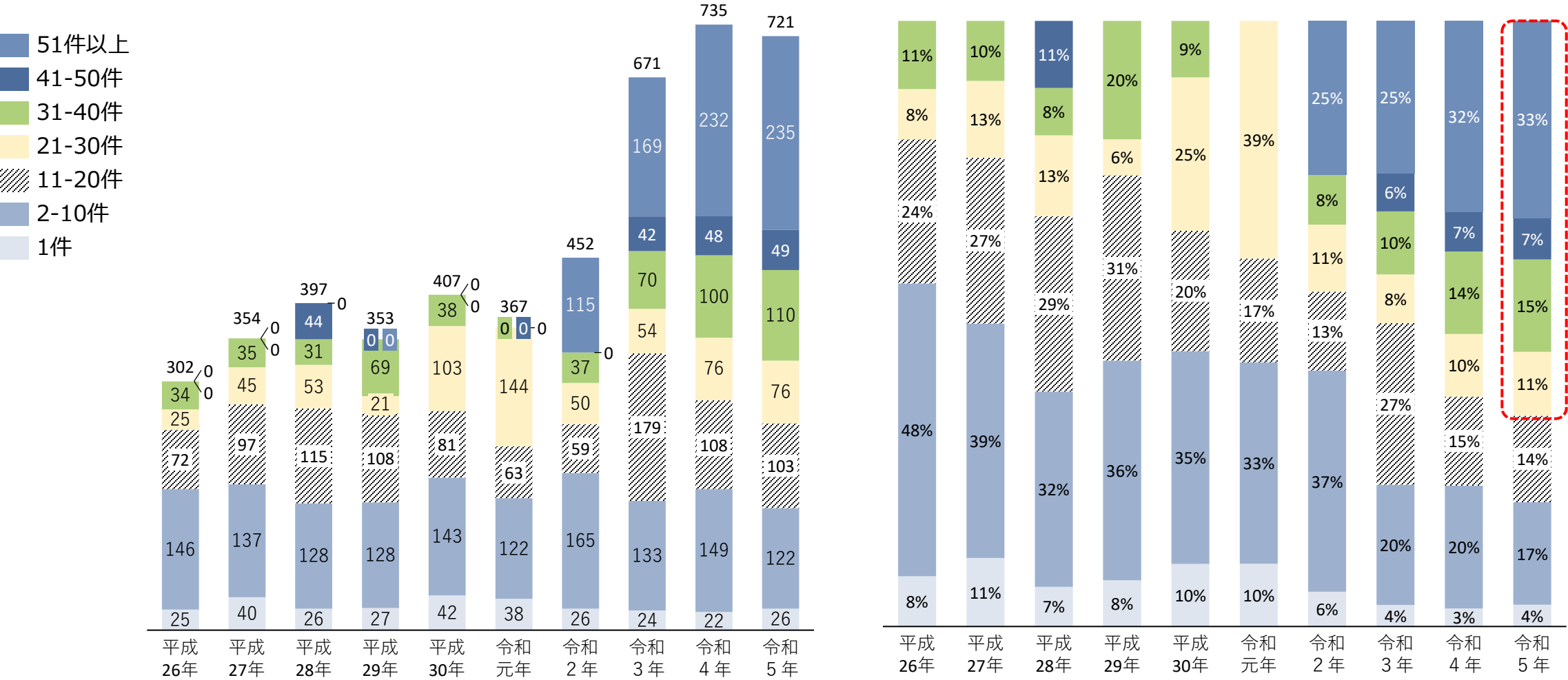
5-1. 年間在宅看取り件数別の練馬区内医療機関数

✓令和4年から令和5年にかけて、年間21件以上の在宅看取りをした医療機関数は変化がなく、年間20件以下の在宅看取りをした医療機関数は3件減少した。



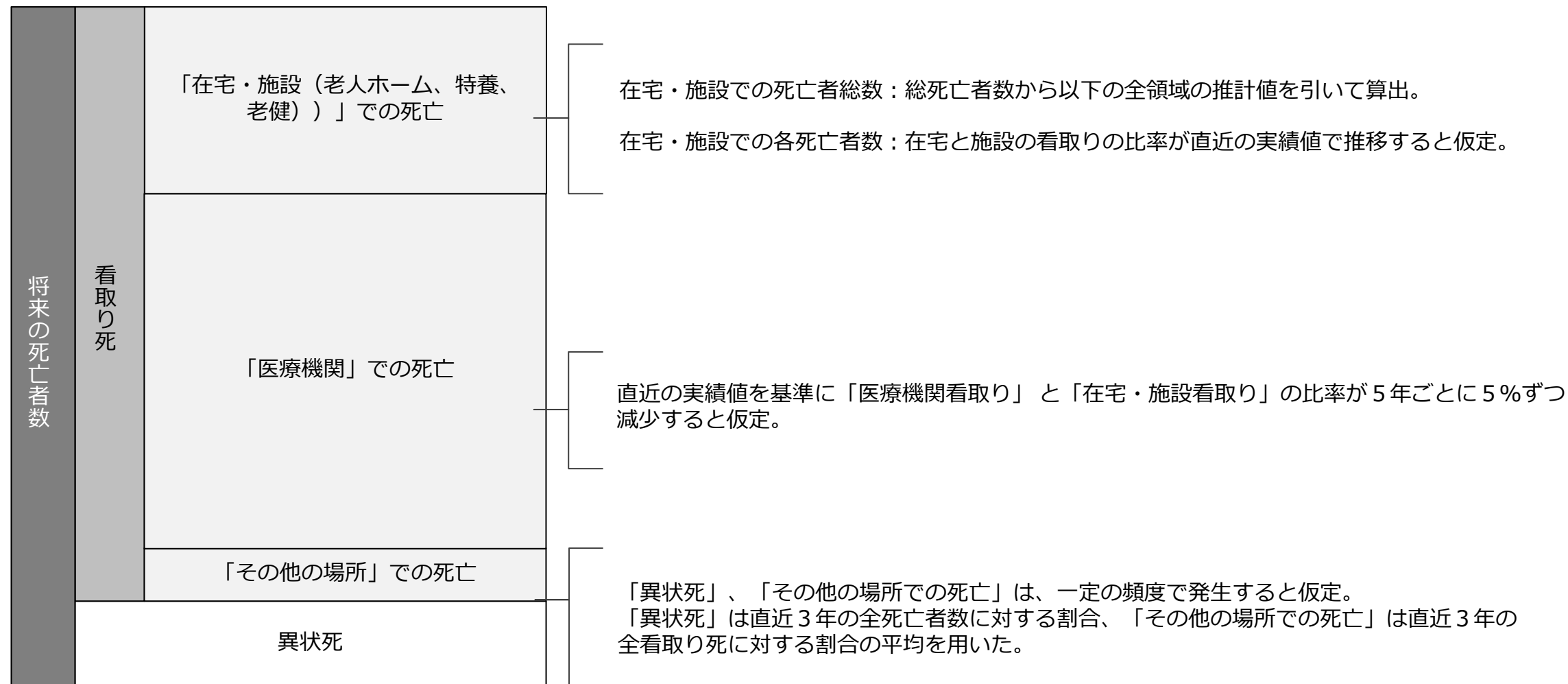
5-2. 医療機関の年間在宅看取り件数区別の看取り件数と割合

✓年間在宅看取り件数が21件以上の医療機関の割合は平成29年以降増加傾向にあり、令和5年は66%で、平成26年以降で最も高い割合となった。また、令和5年における年間在宅看取り件数が51件以上の医療機関の割合は33%であり、平成26年以降で最も高い割合であった。



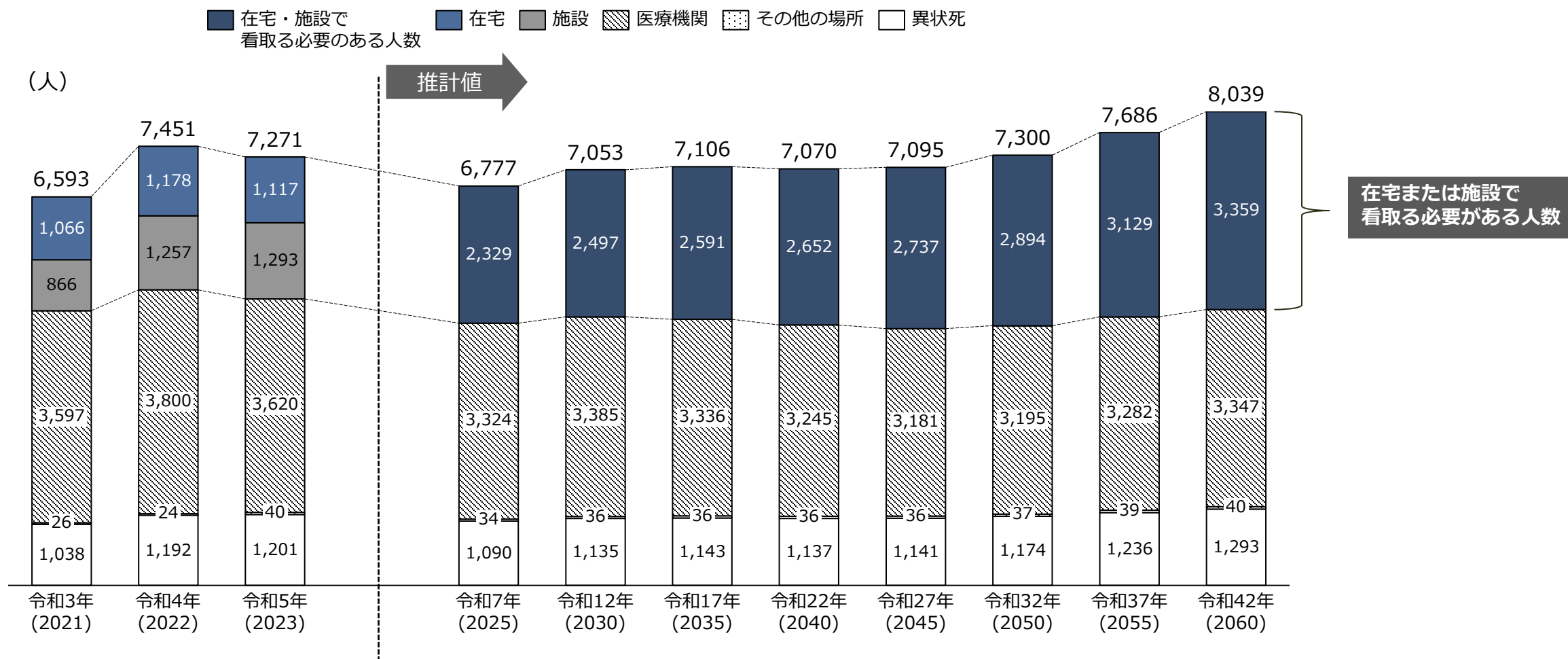
6-1. 将来推計方法

✓ 将来の死亡者数に関する推計は、昨年度と同様の方法で実施した。



6-2. 死亡者数の将来推計

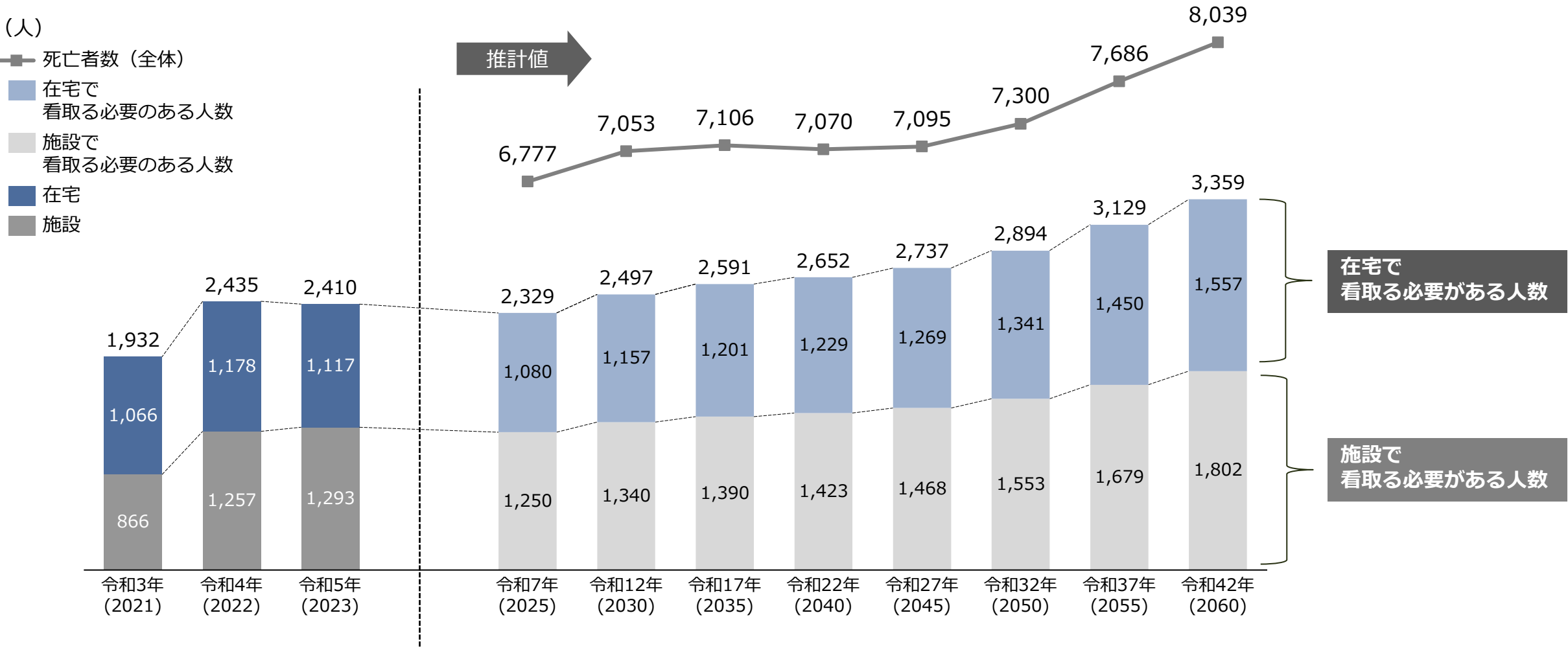
✓後期高齢者人口がピークを迎える令和37年（2055年）頃には、在宅または施設で看取る必要がある人数は3,129人になると推計される。



出所：死亡分析結果、国立社会保障・人口問題研究所の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計を元に推計

6-3. 在宅・施設での看取り件数の将来推計

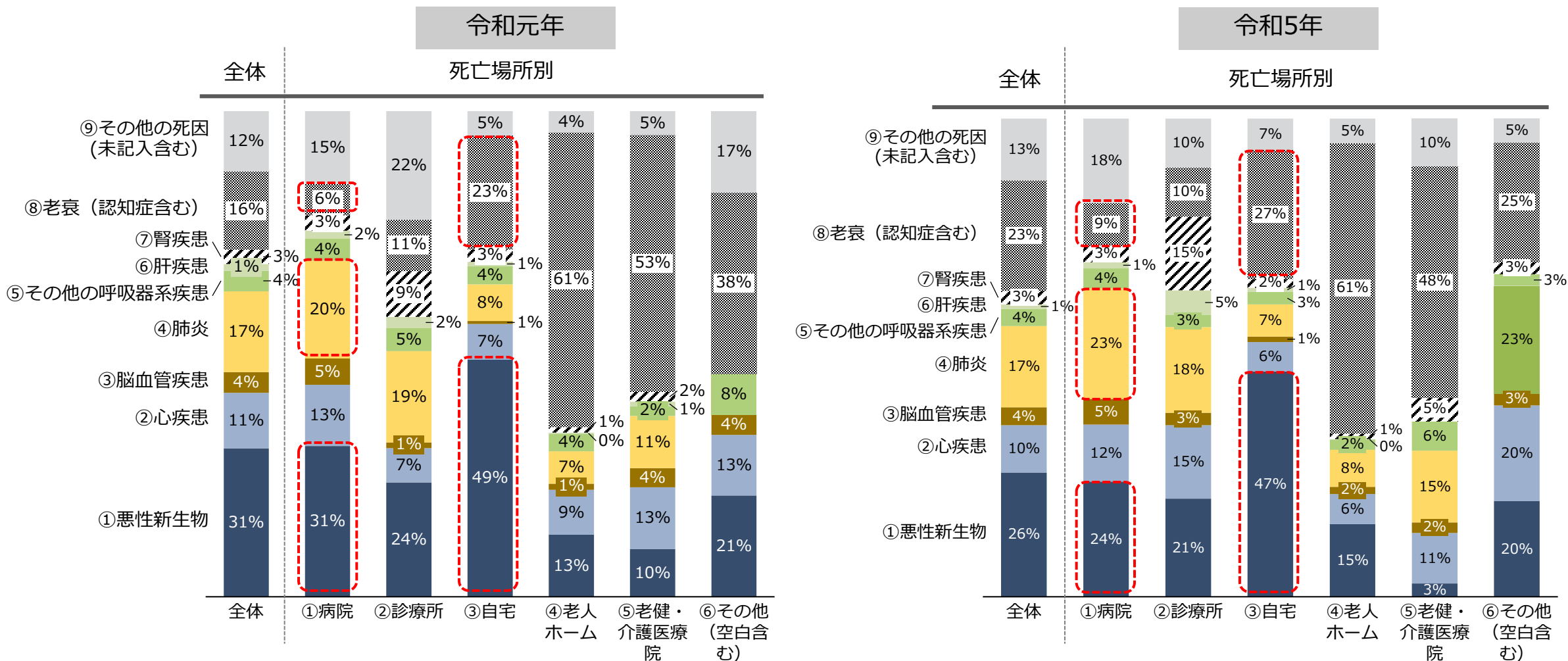
✓後期高齢者人口がピークを迎える令和37年（2055年）頃には、在宅では1,450人を、施設では1,679人を看取る必要があると推計される。



出所：死亡分析結果、国立社会保障・人口問題研究所の生残率・練馬区人口ビジョンの将来人口推計を元に推計

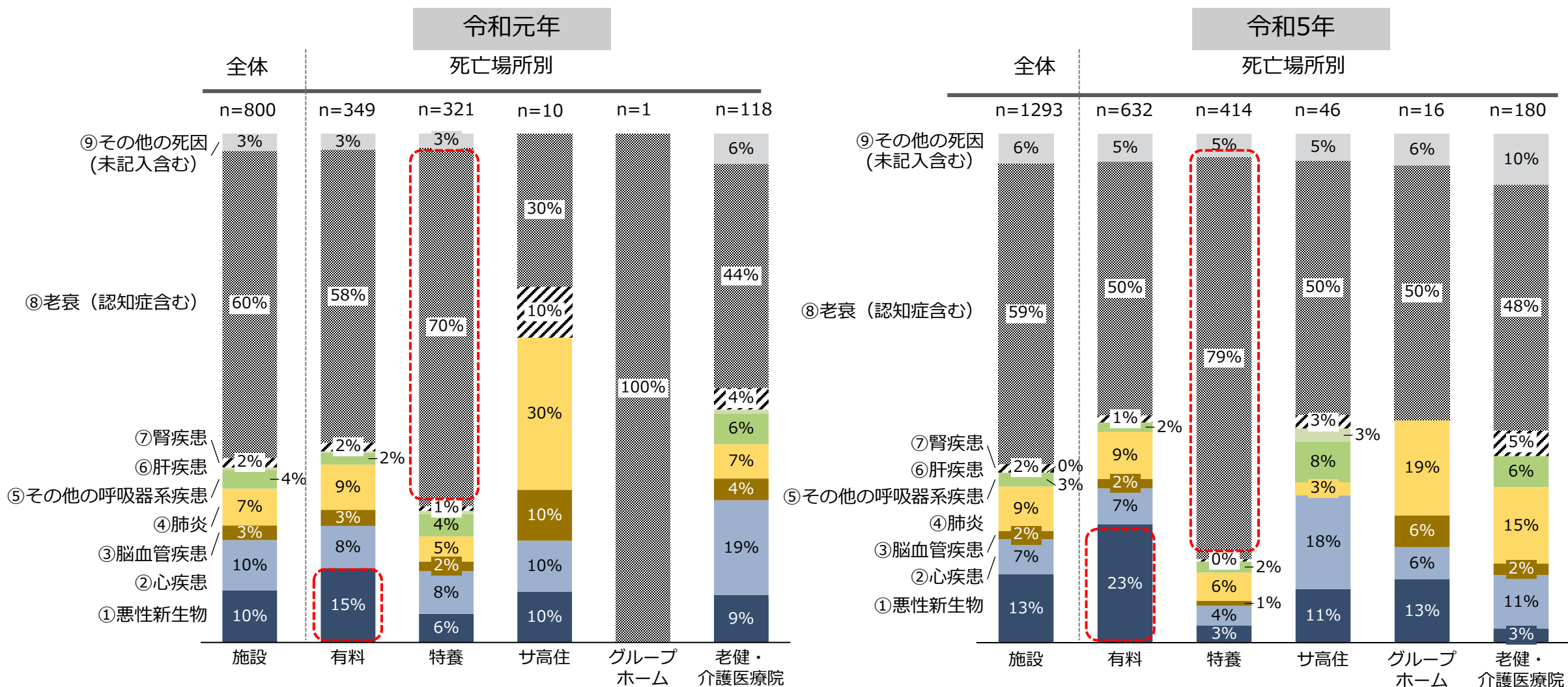
【参考】死亡場所別の死因の変化（令和元年・令和5年）

✓令和元年から令和5年にかけて、病院での悪性新生物の看取り割合は7%減少し、肺炎と老衰の看取り割合は3%増加した。
また、自宅での悪性新生物の看取り割合は2%減少し、老衰の看取り割合は4%増加した。



【参考】死亡場所別_施設の死因の変化（令和元年・令和5年）

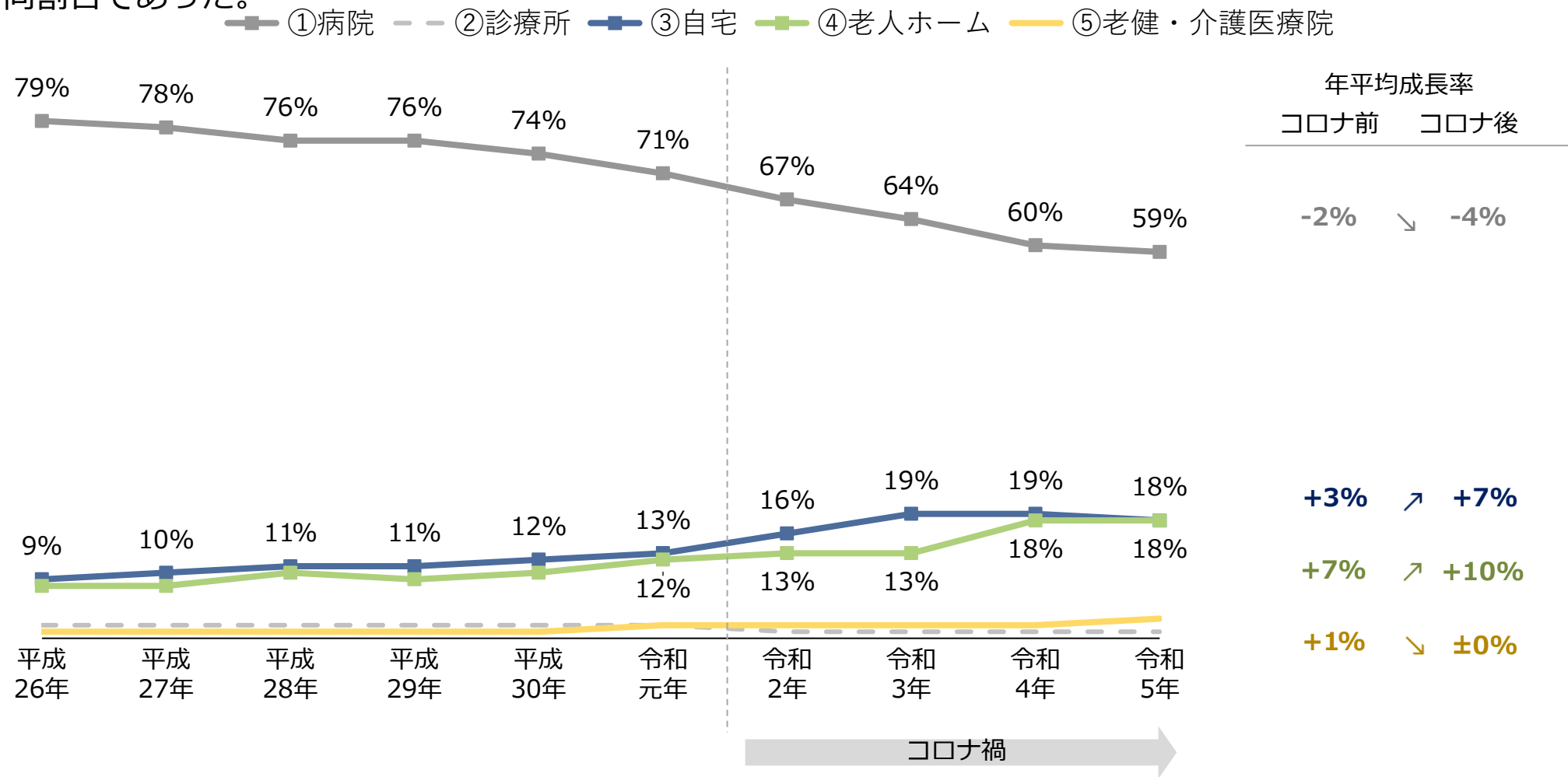
✓令和元年から令和5年にかけて、有料における悪性新生物の看取り割合は8%、特養における老衰の看取り割合は9%増加した。



【参考】看取り場所の変化

✓近年、病院から自宅および施設での看取りに移行しつつある。

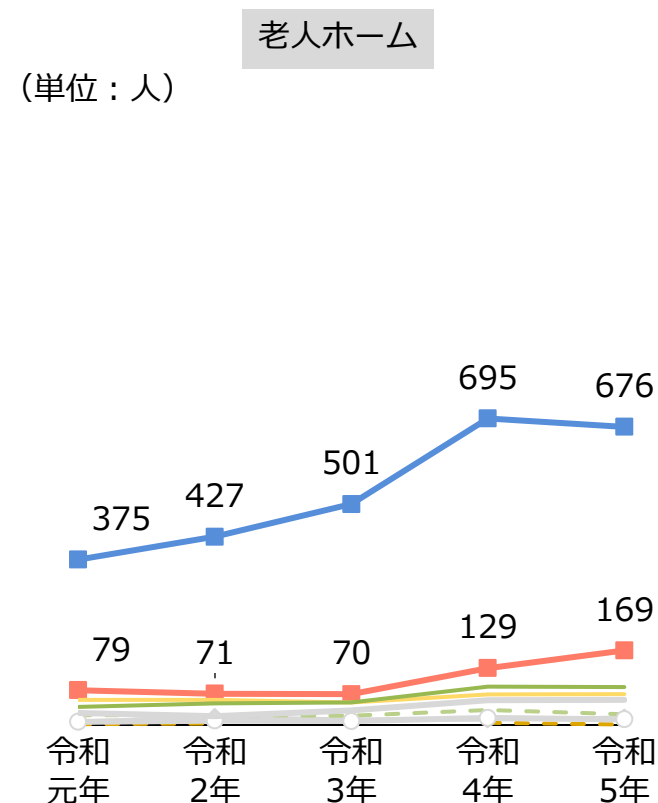
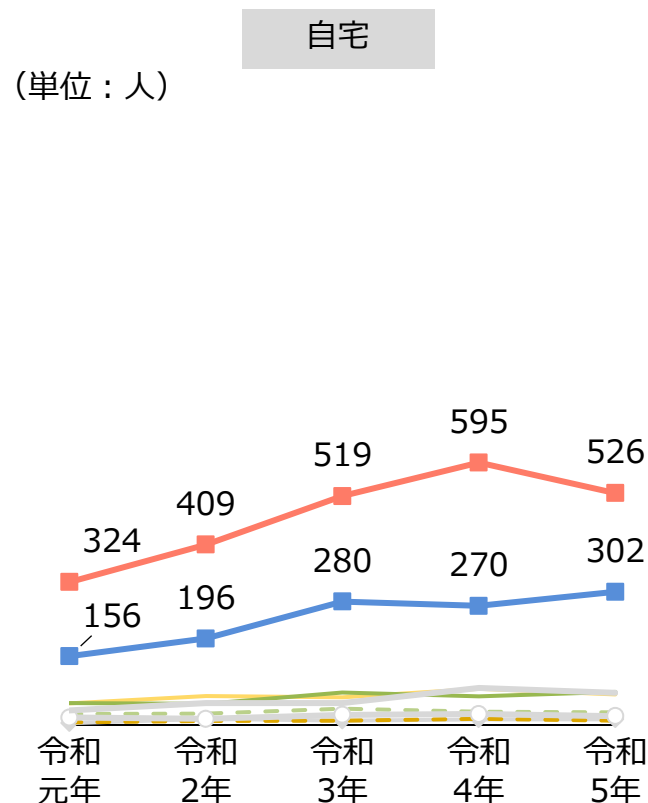
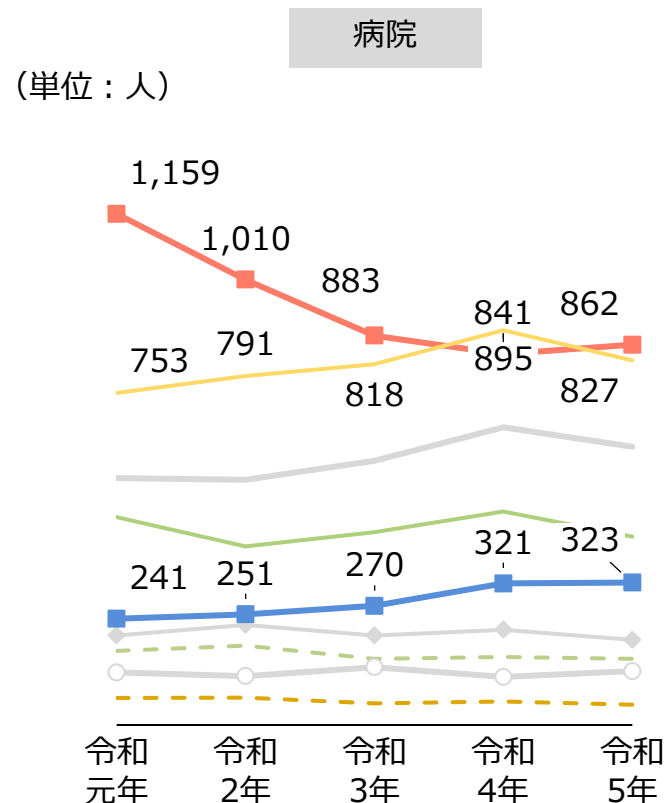
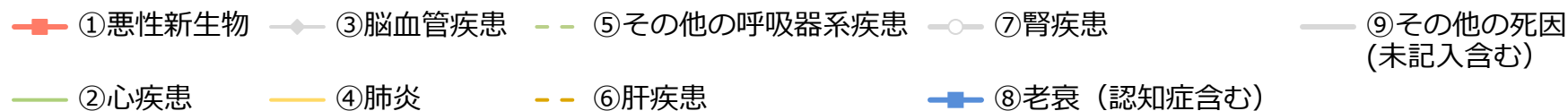
✓コロナ禍後、令和3年までは自宅における看取り割合が顕著に増加していたが、令和3年から令和4年にかけて、老人ホームにおける看取り割合が顕著に増加した。その後、令和5年には自宅における看取り割合と老人ホームにおける看取り割合は18%と同割合であった。



【参考】看取り場所別の死因別看取り患者の変化（実数）

✓コロナ禍以降、病院における悪性新生物の看取り数は減少、自宅では増加傾向にあったが、令和4年から令和5年にかけて、病院では増加、自宅では減少に転じた。

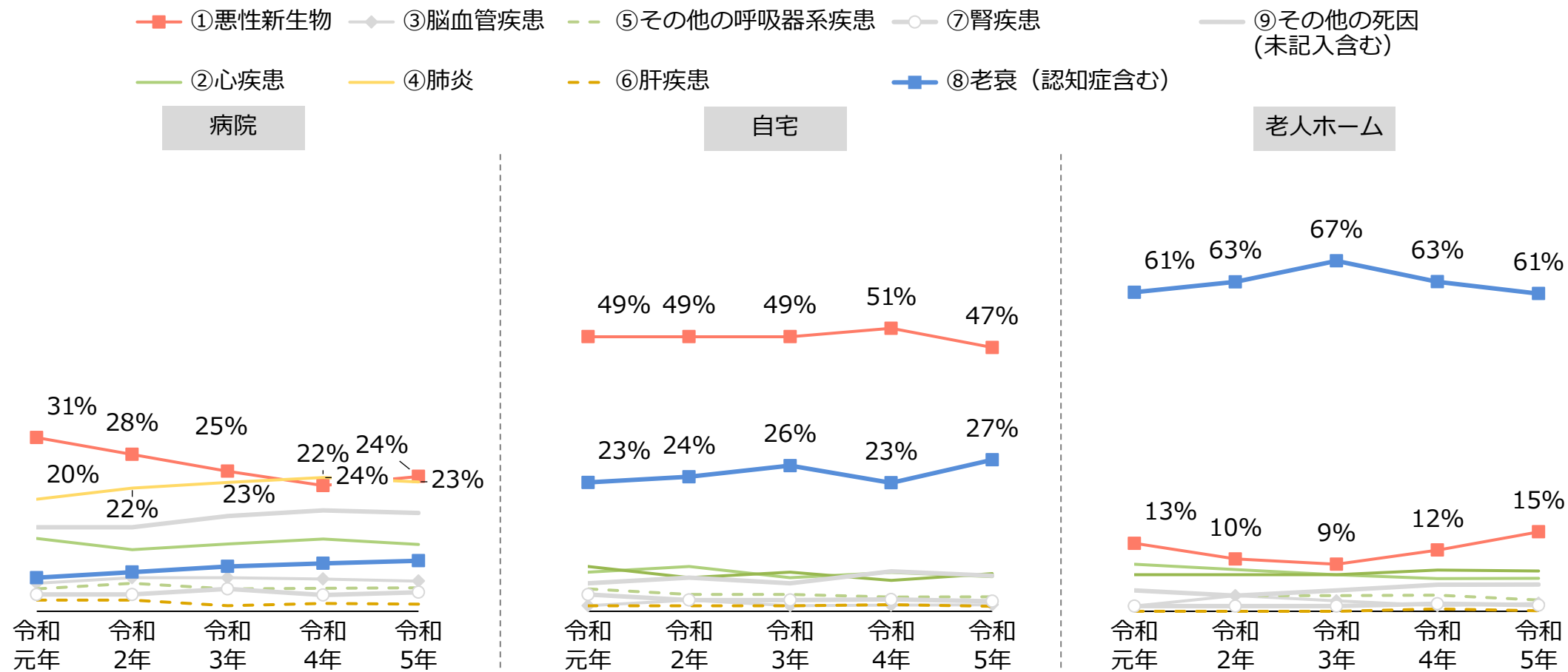
✓老人ホームにおける老衰の看取り数はコロナ以降までは増加傾向であったが、令和4年から令和5年にかけて減少に転じた。



【参考】看取り場所別の死因別看取り患者の変化（割合）

✓令和元年から令和4年にかけて、病院の悪性新生物看取りの割合は減少傾向にあったが、令和4年から令和5年にかけては増加に転じ、令和5年における悪性新生物看取りの割合は肺炎看取りの割合を上回った。

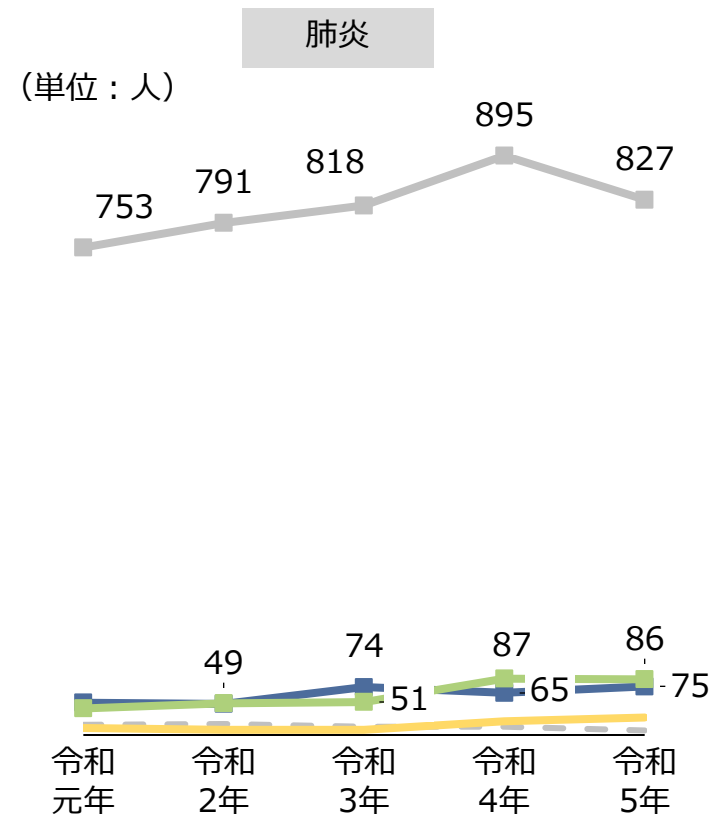
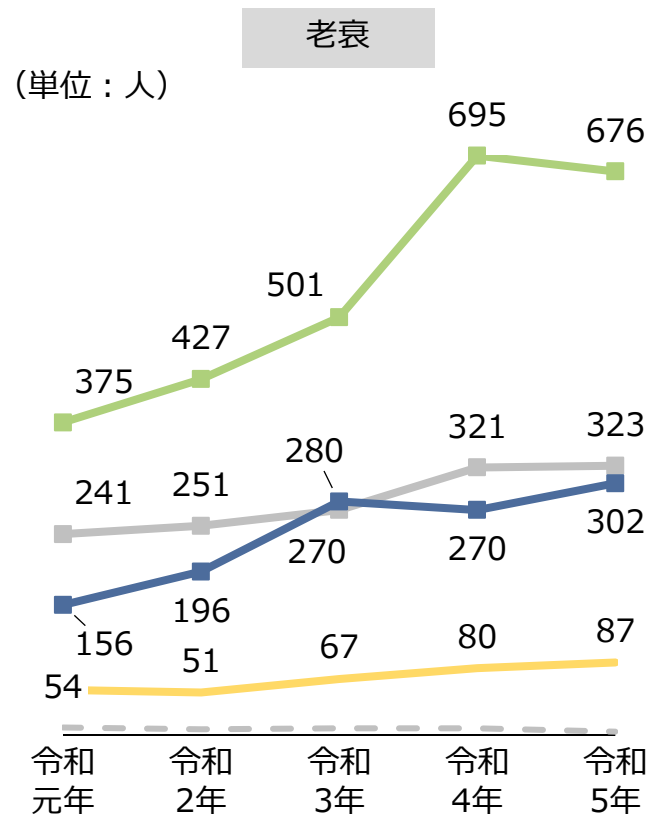
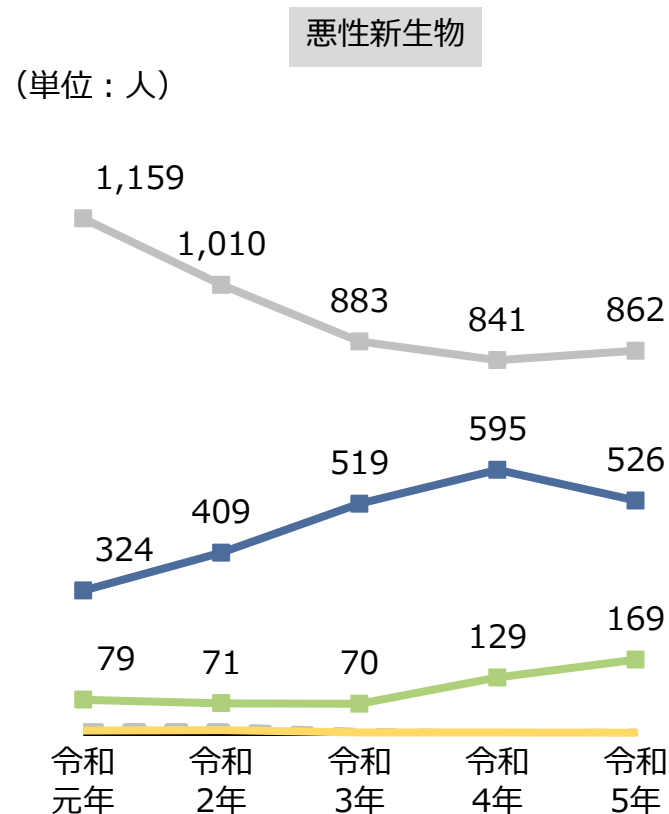
✓令和3年から4年にかけて、自宅の老衰看取りの割合は減少したが、令和4年から令和5年にかけて増加に転じ、令和5年における自宅の老衰看取りの割合は令和元年以降で最多であった。



【参考】死因別の看取り場所別看取り患者の変化（実数）

✓死因の上位3疾患に関する令和4年から令和5年の死亡場所の変化を見ると、悪性新生物の看取り数は病院と老人ホームで増加したが、自宅では顕著に減少した。老衰は自宅が増加したが、老人ホームでは減少した。肺炎は病院が顕著に減少した。

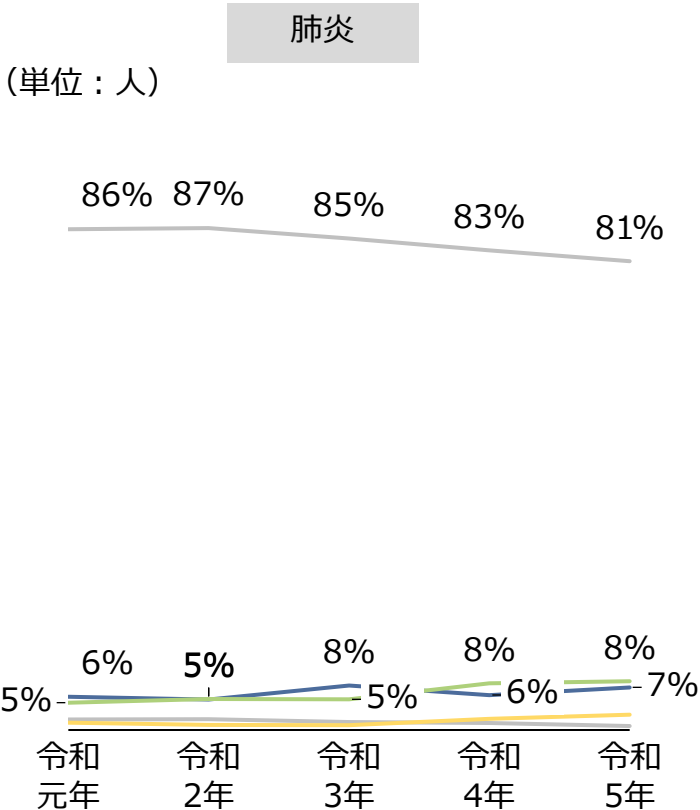
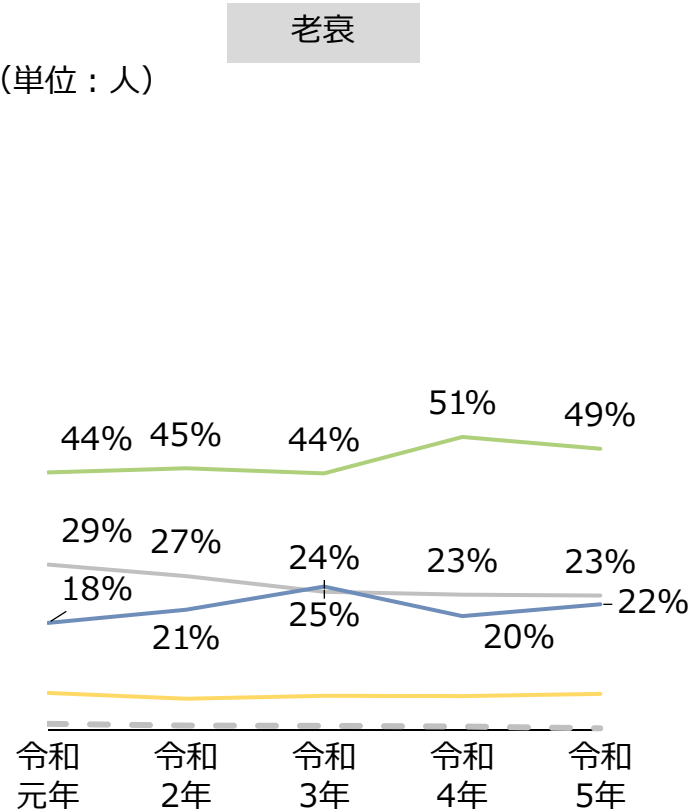
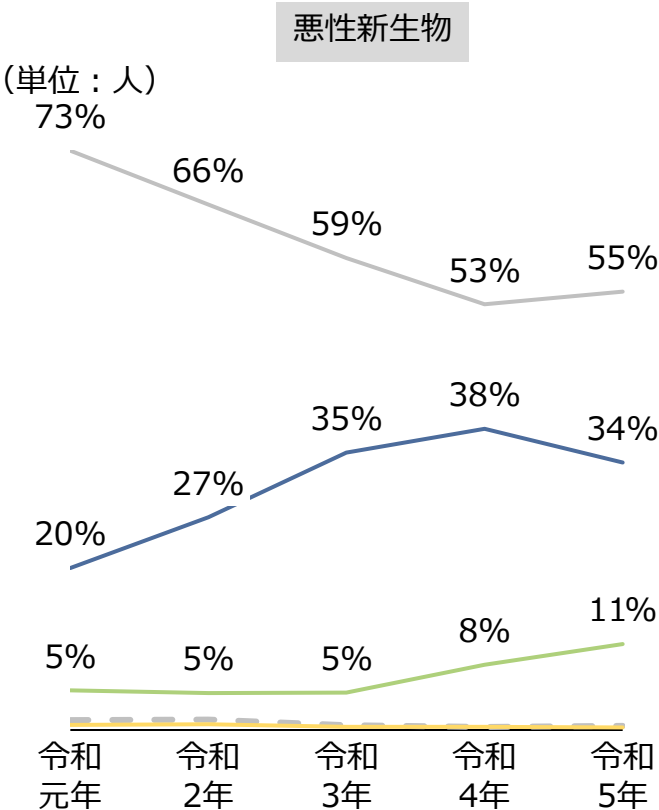
■ ①病院 - - ②診療所 ■ ③自宅 ■ ④老人ホーム — ⑤老健・介護医療院



【参考】死因別の看取り場所別看取り患者の変化（割合）

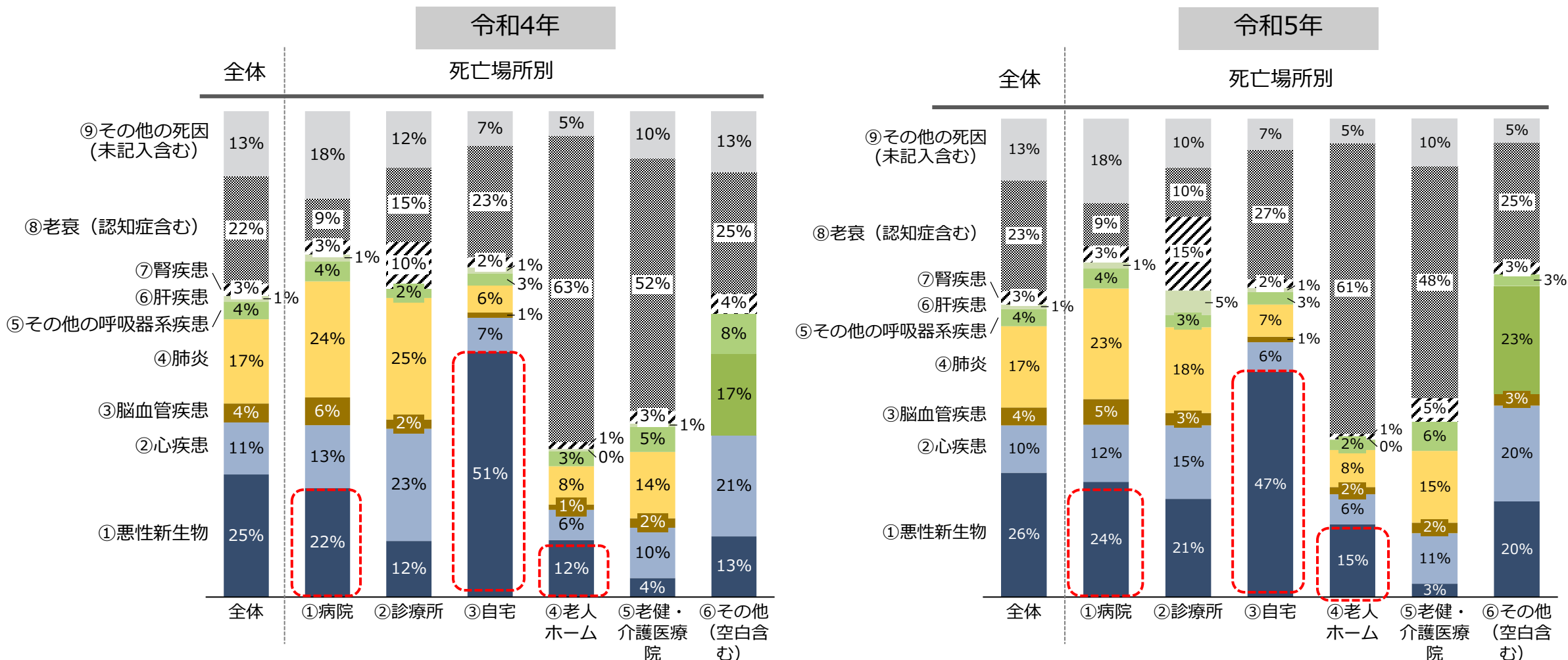
✓死因の上位3疾患に関する令和4年から令和5年の死亡場所の変化を見ると、悪性新生物の看取り割合は病院と老人ホームで増加したが、自宅では顕著に減少した。老衰の割合は自宅が増加したが、老人ホームでは減少した。肺炎は病院が令和2年から令和4年の傾向に引き続き減少した。

- ①病院
- ③自宅
- ⑤老健・介護医療院
- ②診療所
- ④老人ホーム



【参考】死亡場所別の死因の変化（令和4年・令和5年）

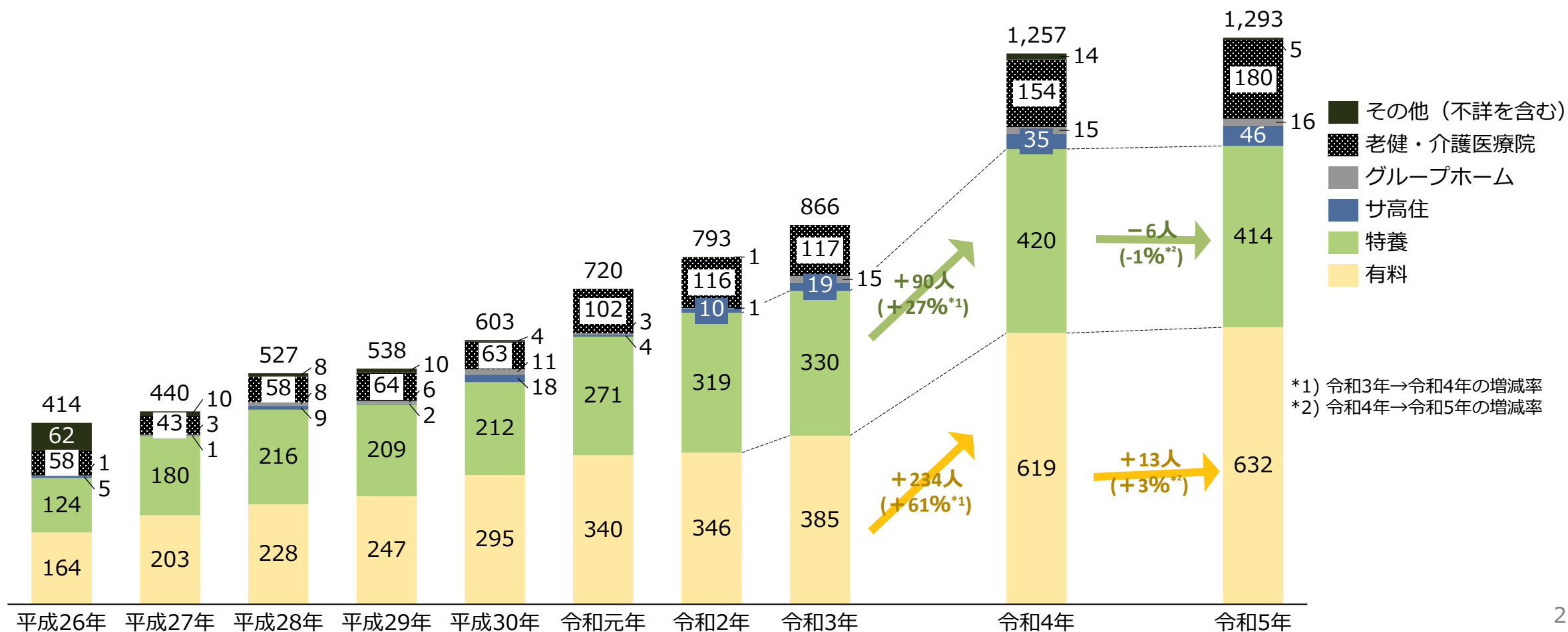
✓令和4年から令和5年にかけて、自宅における悪性新生物の看取り割合は4%増加したが、病院における悪性新生物の看取り割合は2%、老人ホームは3%増加していた。



【参考】施設看取り（老健・介護医療院含む）_死亡場所別の看取り数の経年変化（実数）

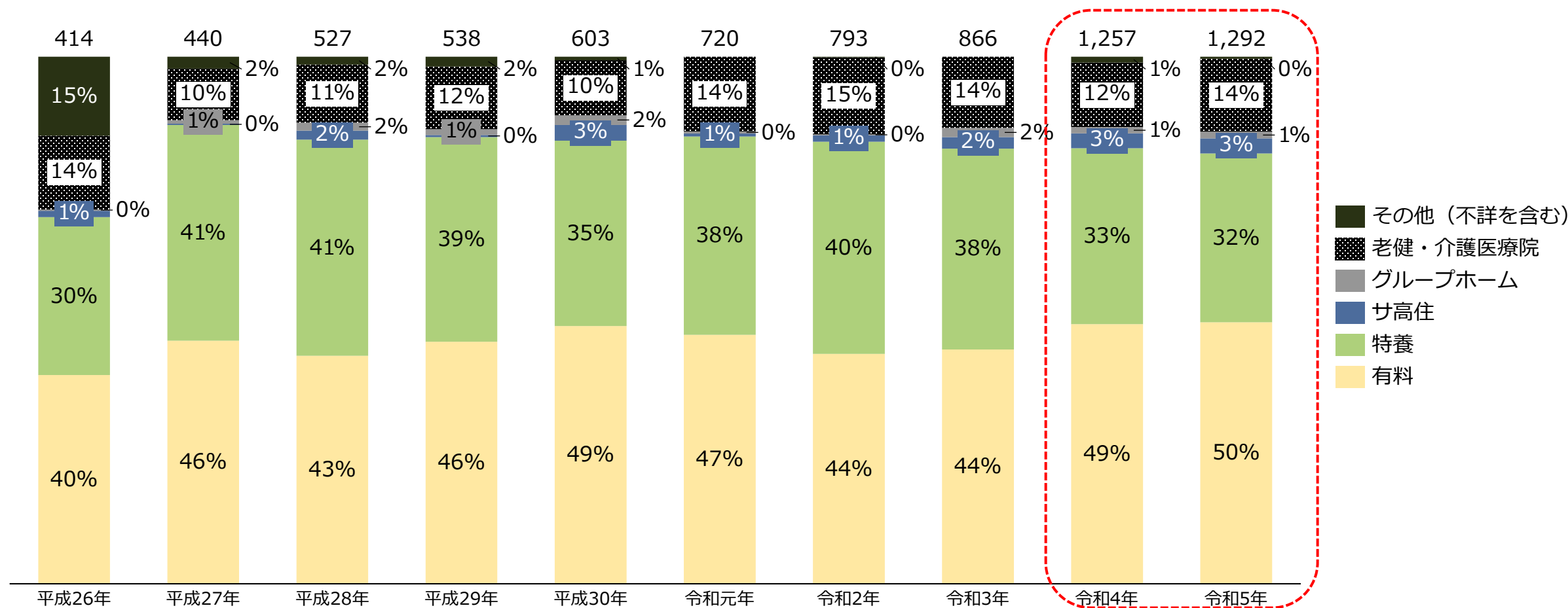
✓令和3年から令和4年にかけて有料と特養の看取り数は顕著に増加したが、令和4年から令和5年にかけては有料の看取り数の伸びは鈍化し、特養はほぼ横ばいであった。

(人)



【参考】施設看取り（老健・介護医療院含む）_死亡場所別の看取り数の経年変化（割合）

✓令和4年と令和5年における死亡場所の施設看取り割合を比較すると、有料と特養の看取り割合に大きな変化は見られなかった。

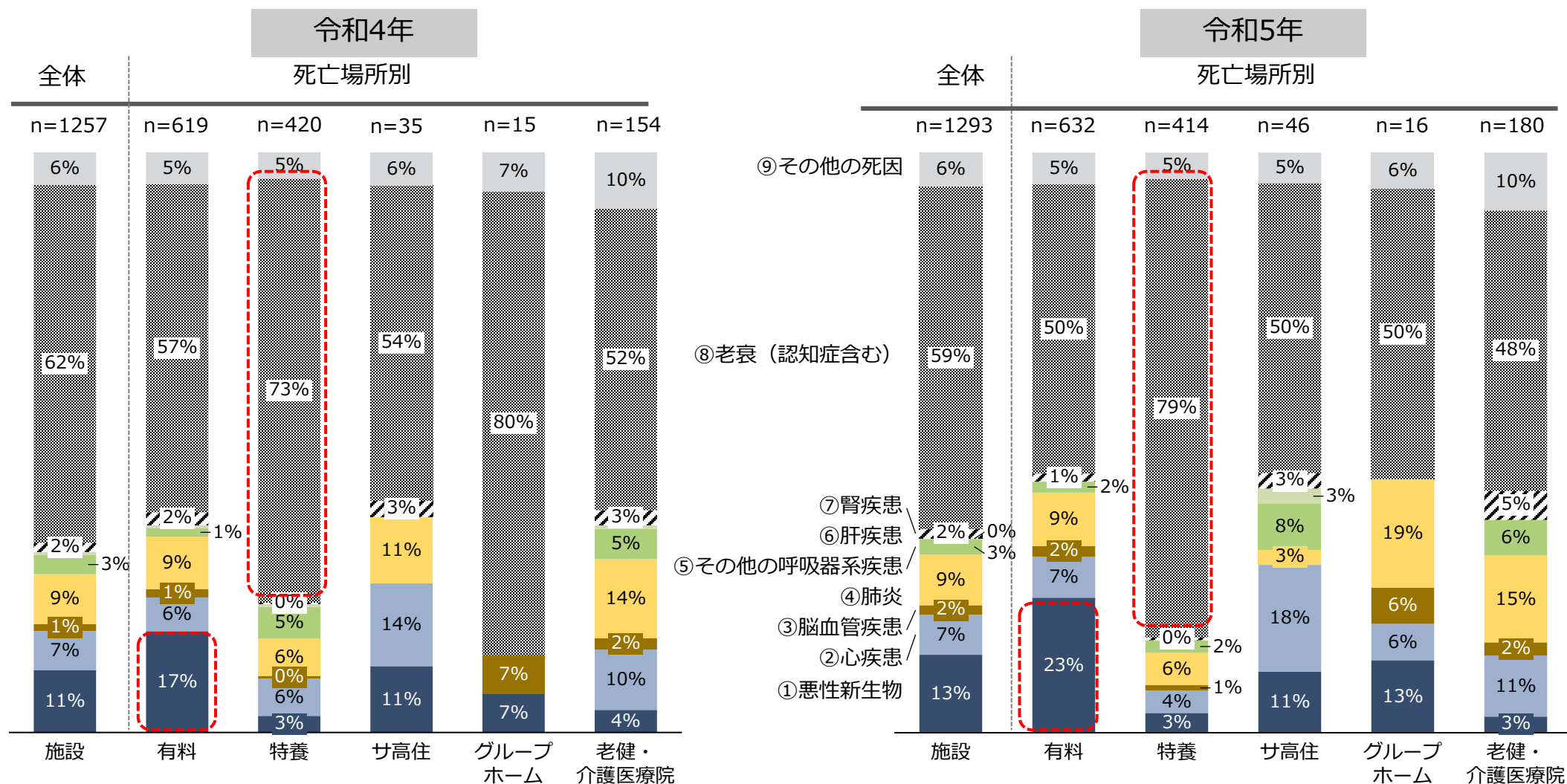


「老人ホーム」は、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームなどを含む。

「その他（空白を含む）」は、空白のほか、障害者支援施設、警察署、屋外施設などを含む。

【参考】施設看取り（老健・介護医療院含む）_死因の変化（令和4年・令和5年）

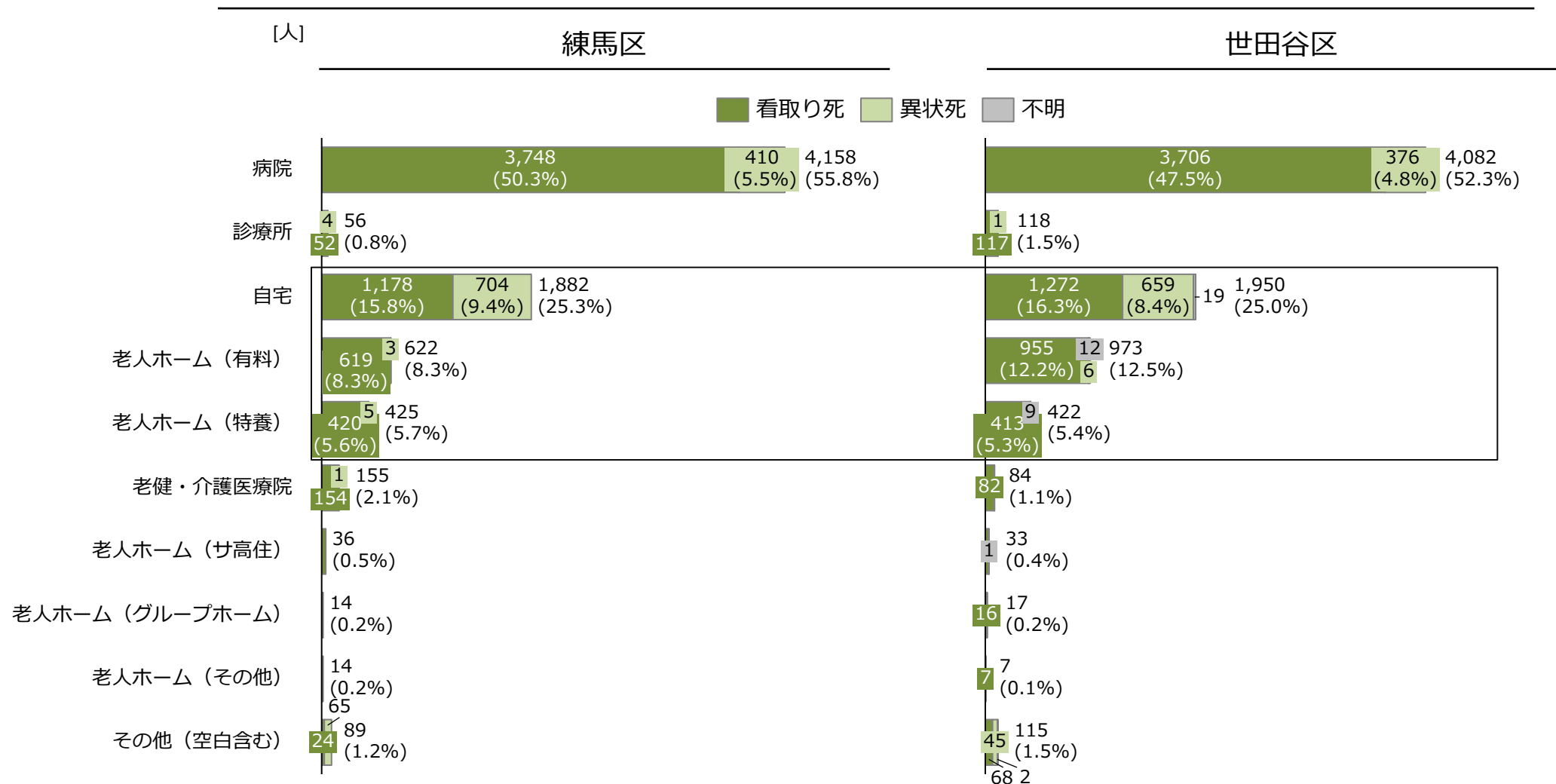
✓令和4年から令和5年にかけて、有料における悪性新生物の看取り割合と特養における老衰の看取り割合は、共に6%増加していた。



【参考】令和4年の死亡者数－死亡場所・死亡分類別（世田谷区との比較）

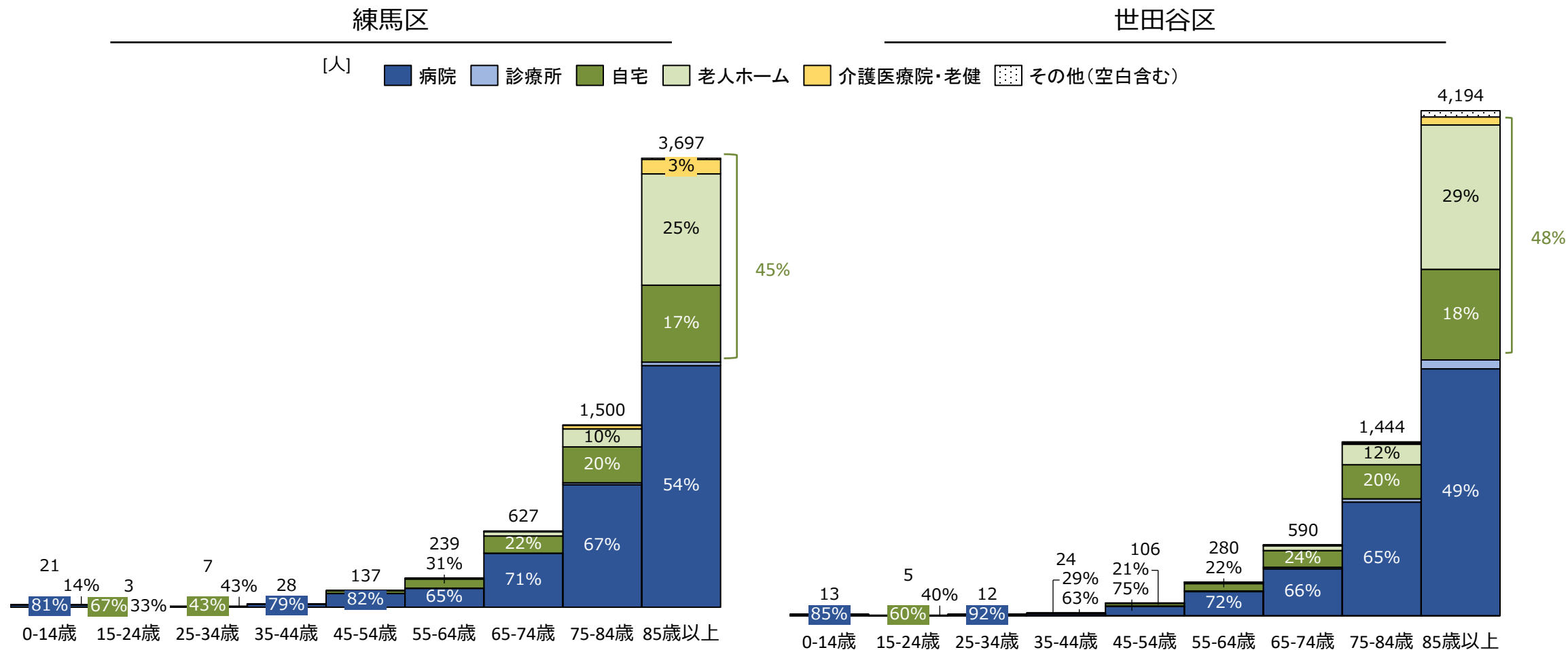
- ✓ 両区を比較すると、自宅・特養における看取りの割合は同等レベルであったが、有料老人ホームの看取り割合は練馬区が世田谷区より約4%少なかった。

死亡の状況－死亡場所・死亡分類別



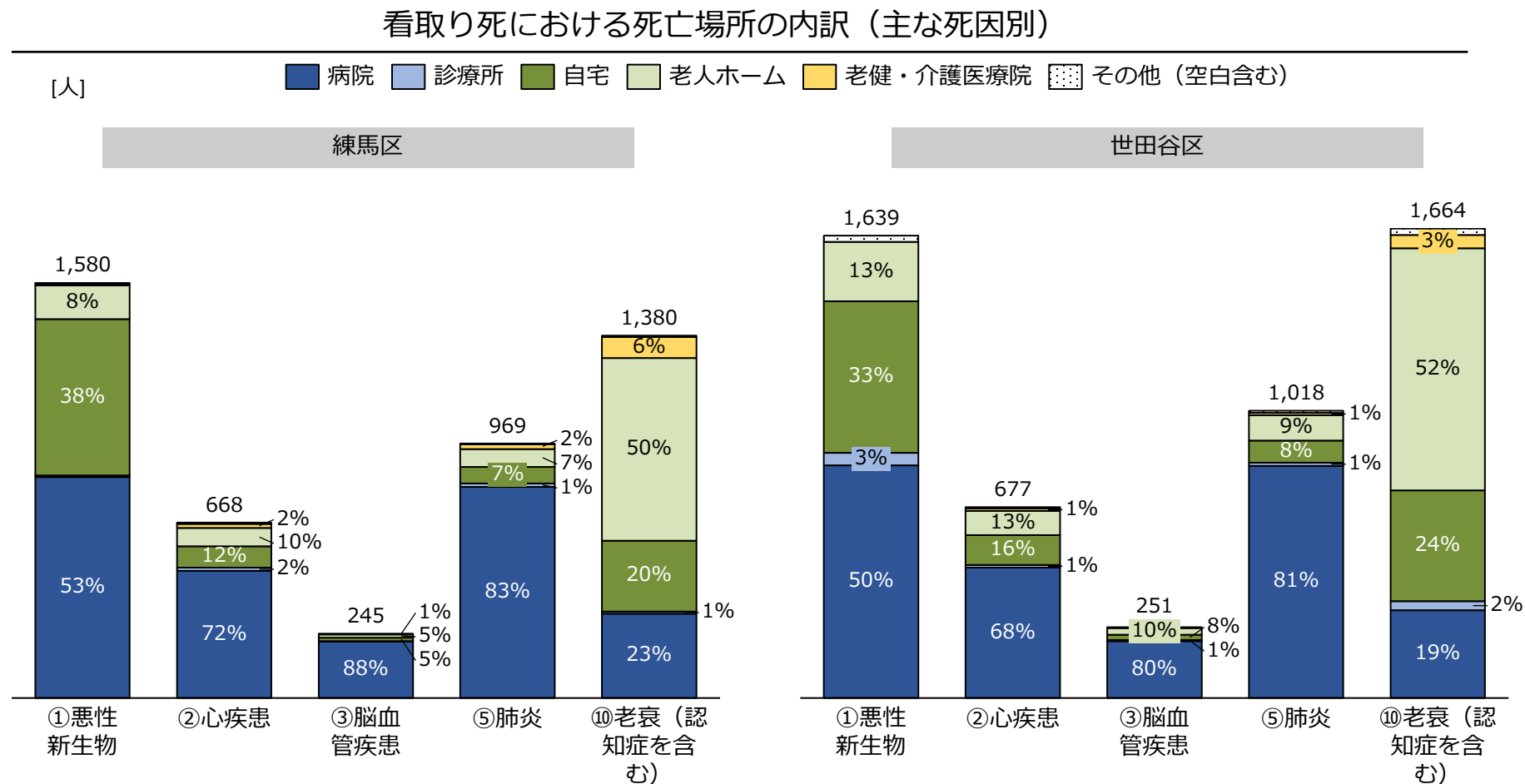
【参考】令和4年における看取り死の比較－年齢区分・死亡場所別（世田谷区との比較）

- ✓ 練馬区は55～64歳の自宅における看取りが約30%であり、世田谷区と比較して多かった。また、両区とも85歳以上では医療機関以外での看取りが約半数であった。



【参考】令和4年における看取り死の比較－死因・死亡場所別（世田谷区との比較）

✓ 両区とも悪性新生物では約50%、老衰では約80%が自宅・施設における看取りであった。

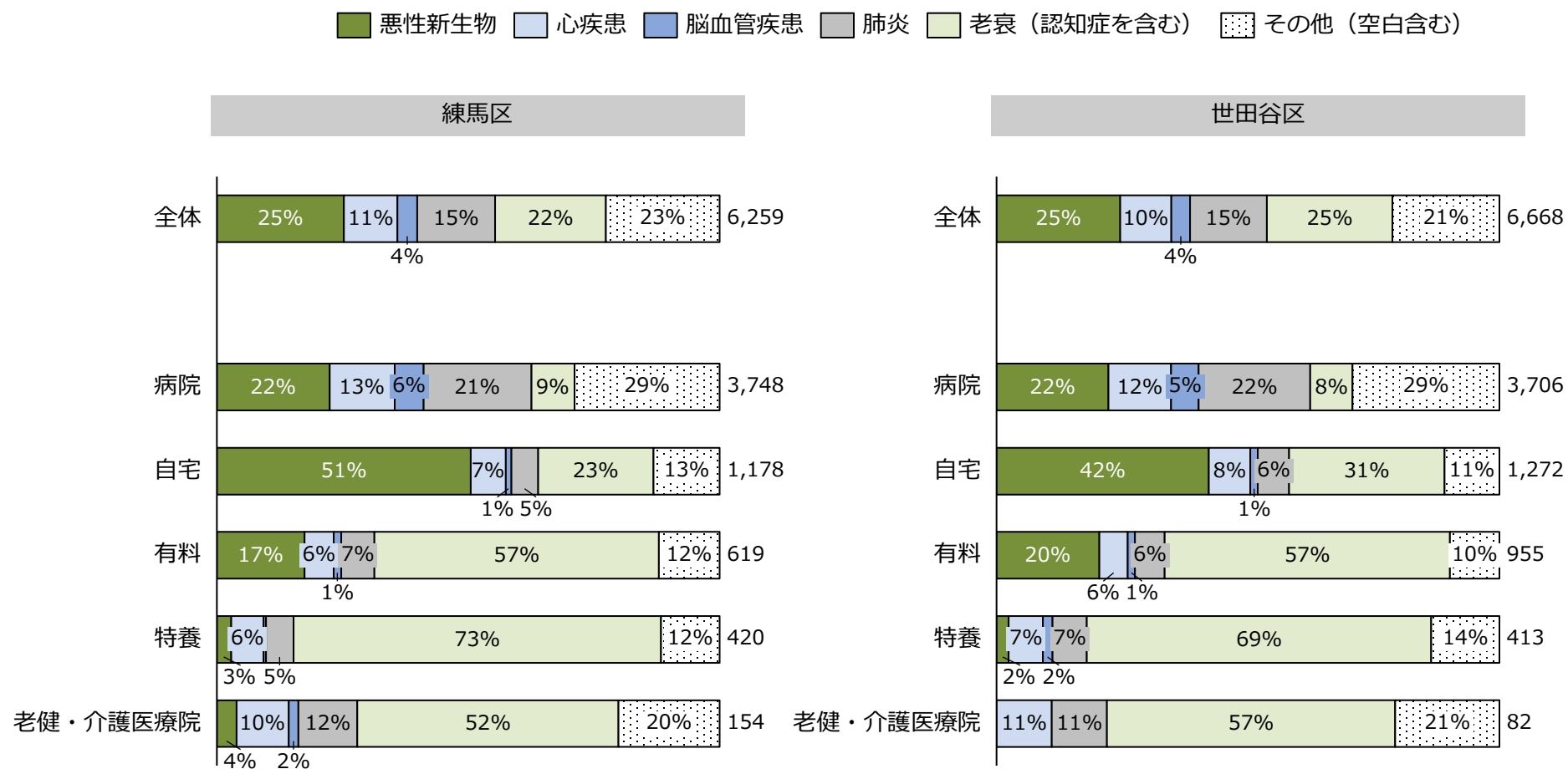


※両区の死因分類定義を揃えるため、新型コロナウイルス感染症をその他として集計

【参考】令和4年における看取り死の比較－死亡場所・死因別（世田谷区との比較）

- ✓ 看取り死全体における死因の内訳は両区で概ね同じ傾向だが、自宅における死因の内訳はやや傾向が異なり、練馬区では悪性新生物が約半数であった。

看取り死における死因の内訳（主な死亡場所）



※両区の死因分類定義を揃えるため、新型コロナウイルス感染症をその他として集計